



川の江秋祭り。石川理事長も神輿を担いで……

木々の紅葉が色付く頃、「ドーン」「ドーン」と太鼓の音が市内に鳴り響いてきました。

そう、この日10月15日は、川の江秋祭り最終日。毎年、上分神社の神輿がやってくる日です。

朝から神社を出発した3台の神輿は、上分町内を回り、道中で待ち受ける別名“心臓破りの坂？”を越え、「わっしょい！」「わっしょい！」という掛け声とともに、ご利用者の皆さんが待ち受ける樋谷荘グ



ラウンドにやってきました。

その1台の担ぎ手の中に、何と「理事長」の顔が!!
そうです。約6年の時を経て、再び石川理事長が上分町の他の皆様と一緒に、神輿を担いで来て下さったのです。

後の挨拶では「毎年、ご利用者の皆様が楽しみにされている、この上分町の神輿を、久しぶりに担いでみて、ここまで来る大変さをあらためて実



感しました。毎年来て下さる地域の皆様に感謝したい。」と話され、その表情はどこどなしか清々しさに満ちていました。

ご利用者の皆様は、力強い差し上げに“拍手喝采”。

威勢のいい掛け声を一緒になって口ずさみ、まるで、ご自分も神輿をかついでいるかのような様子でした。

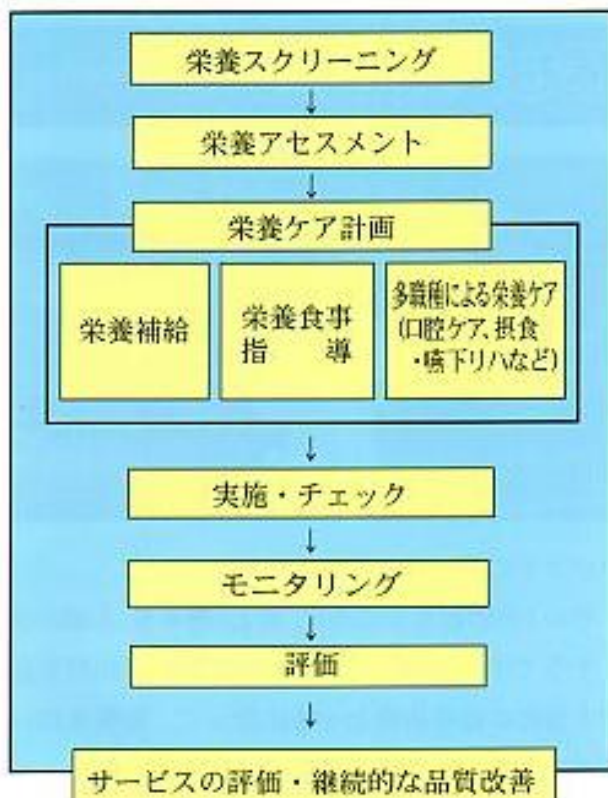
休憩時には、荘厳な神輿に触れ「やっぱり祭りはええなあ。」と笑顔いっぱいでお手を合わせ、1年間のお礼と感謝の気持ちを伝えました。

こうして約50名からなるかき夫に担がれた、3台の神輿は“熱気と興奮”を残して、愛美会を後にし、祭りで賑わう町へと帰られました。

毎年このケアタウン樋谷まで、神輿を担いで来て下さる地域の皆様、本当にありがとうございます。



～樋谷荘栄養ケア・マネジメント～ 『食事と栄養』の満足度向上を目指して



※「栄養ケア・マネジメント」の手順

来年4月からの介護保険制度抜本改正に先駆け、本年10月から、居住費の他、食費が原則ご利用者負担となりました。

生命の源である『食』については、これまでも樋谷荘のこだわりのひとつでもありましたが、ご利用者個々の嗜好や栄養状態、咀嚼・嚥下能力などをエビデンス(根拠)に基づき評価した上で、個別の「栄養ケア計画」を作成し、お1人お1人に対応した食事提供を行おうと、10月から「栄養ケア・マネジメント」の実践を行っています。

これは、単に計画を立てて実施するだけでなく、医師・管理栄養士・看護師・介護支援専門員などが協働して、その成果を定期的に評価し、継続的にサービスの品質を改善し、ご利用者にとって「今」必要と望まれる食事を提供して行こうというものです。

栄養ケア・マネジメントにおいては、チームアプローチが重要といわれていますが、施設職員が一丸となった栄養管理の取り組みを行うことは、食費の自己負担という制度改正に伴う施設の使命だと認識し、ご利用者の皆様の栄養状態とQOL(生活の質)、加えて、満足度の向上にこれまで以上に努めていきたいと思っております。

樋谷の秋は芸術の秋 ～文化週間開催～

樋谷の山々も、燃えるような紅葉で彩られ、一足飛びに冬仕度を始めました。

例年この季節に行われている催し物のひとつ、文化週間が11月21日～27日の1週間、樋谷荘3階健康広場にて開催されました。

入居者の皆さんや職員だけでなく、デイサービスで通って来られている皆さんの、日頃作業療法で取り組んだ作品も展示され、多くの方が興味深く見学されました。

1年を季節ごとに振り返った、超特大ボードによる写真展や、個人別の習字クラブでの成果に加え、フラワーアレンジメントや団扇等沢山の展示が行われ、ご自分の作品を皆に紹介される方もおり、その誇らしげな姿が印象的でした。

写真展をご覧になられた、ご家族からも「皆に愛され、大切にされているのが、日頃のスナップでよく分かります。」との感想をいただきました。



※ご自身の作品の前で。

ケアハウス虹の里 水引と手すき和紙体験へ！

去る11月8日(火)に、妻鳥町の愛媛県紙産業研究センターへ入居者の方13名と一緒に、水引と手すき和紙体験へ出掛けました。こちらのセンターは、平成15年4月に開設され、紙の婚礼衣装による結婚式で有名になりましたが、ケアハウスの北側からすぐ間近に見えるにもかかわらず、一度も訪れたことがなく、一度行ってみたいとの入居者の声に応え、企画したものです。

センター職員のご案内のもと、金店紙や和紙人形、水引モニュメント等の伝統工芸から最新技術まで詳しい説明を受けた後、実際に体験してみることに



なりました。

水引では、携帯ストラップを作り、手すき和紙では、はがきを作りました。“昔はこれようやったんよ。懐かしいわ”というような声が聞こえる中、あっという間に時間が過ぎてしまいました。これからは皆さんの色々な声を聞かせて下さいね。虹の里では、出来る限り皆様のご要望に応え、明るく楽しい生活が送れるようお手伝いいたします。

お問い合わせ先 ☎58-0012 担当:児山まで

グループホーム虹の里 六地藏尊法要を前に！

今年も年に一度の六地藏尊法要の季節がやって来ました。グループホーム虹の里では、毎回法要が行われる前に必ず掃除をさせていただいています。お念仏を唱えながら1年間の汚れを落とし、真新しい帽子と前掛けに衣替えると、六地藏様も心なしか“にっこり”している様に見えます。

利用者の皆様もきれいになった六地藏様を嬉しそうに見ては、手を合わせていました。六地藏尊は、グループホームのみならず、愛美会を利用されている皆さんの心のより所となっており、毎日たくさんの方がお参りされています。



9月17日、六地藏尊法要当日は、天候にも恵まれ、石川理事長はじめ、各施設の利用者の皆様、総勢150名の方が参加され、定蓮寺ご住職の説経の中、しめやかに法要が執り行われました。参加者全員、ご住職と共にお経を唱える中、祭主である石川理事長をはじめに、各施設の代表者がお焼香をし、六地藏様に感謝の気持ちを伝えられました。

法要が終わると恒例になりましたご住職のありがたいお話を聞き、その後は個人個人がそれぞれの思いや願いを込め、お焼香をし、六地藏様に手を合わせられました。

アイリス 動物達との触れ合いを通じて…アニマルセラピー



(モルモットを膝の上に乗せて)

普段、あまり動物に触れる機会がなかった、ご利用者の皆様も、手の平サイズのモルモットを抱いたり、足元に擦り寄ってくる犬や猫に直接触れることで、「まあ、なんて可愛らしいの!」「ヨシ、ヨシ。」「名前は何ていうんじゃ?」等の呼びかけが見られ、自然と会話もはずみ、普段とは違った笑顔をとくさん見ることが出来ました。

参加したご利用者の皆様からは「よかったねー。」「可愛かったよ。」等の声をいただき、まさに“癒しの空間”を十分に満喫されていました。

今後もご利用者の皆様の要望に耳を傾け、新たな取り組みをどんどん取り入れていきたいと思っております。

「ワンワン」「ニャー」とどこからともなく、かわいらしい鳴き声が聞こえてきます。

そうです。今日は皆さんが待ちに待ったアニマルセラピーの日です。

愛媛県動物愛護センター様のご協力を受け、11月17日に、ラブラドルレトリバー、シェットランドシープドック等様々な種類の大型、小型犬が5匹、猫1匹、うさぎ2匹、モルモット6匹がアイリスに遊びに来てくれたのです。



(動物達と笑顔に囲まれて……)

アイリス 回転寿司「まるとく」様より無料で招待いただきました

去る11月22、29、30日の3日間、回転寿司「まるとく」様より、「何か地域の皆様に貢献できたら」とのご好意により、ご利用者・職員も含めた約70名を無料で招待していただきました。

ご利用者の皆様は、活気ある店内の雰囲気と、様々な種類のネタを目の前にして、食欲が倍增。

また、車椅子ご利用者専用の席を確保していただく等のご配慮もいただき、居心地の良い店内で、お寿司をお腹いっぱいいただきました。回転寿司「まるとく」様、お忙しい中、本当にありがとうございました。



(お腹いっぱい、いただきました)